

甘えられることに対する不快感情

木 村 歌 那・富 永 幹 人

Negative Feelings about being the object of Amae

Kana Kimura · Mikihiro Tominaga

I 問題と目的

土居 (1971) にて、日本人の心性を表す鍵概念として「甘え」が提出された。甘えの原型は、母子分離を知覚した上で、再び母親との密着を求める乳児の心性にあり、土居は甘えを“人間存在に本来つきものの分離の事実を否定し、分離の痛みを止揚しようとする”と定義する。しばしば調査実証研究の少なさが指摘される甘えの研究であるが、「甘えられる」の研究はさらに少ない。しかし心理臨床の現場において、支援対象から向けられる甘えを避けることはできず、甘えに関連して生じる様々な感情を引き受けることは臨床家に求められる資質と整理できる。Niiya & Harihara (2012) では、甘えられることで生じる快感情を調査し、甘えを肯定的に受容する条件として、関係の親密さの知覚、甘えの受容に関する統制感、時間や活力等リソースの保有を見出している。反対にこれらが無い場合、甘えを拒む可能性が考えられる。山口 (1999) でも、甘えは次の二点、①甘える側の行動や欲求が社会的に不適切と甘えられる側が認識すること、②その不適切さが許容されることを甘える側は期待していると甘えられる側が認識することで成立するとされ、状況や関係性によっては不快感情が生じる可能性が考えられる。本研究では、支援者において生じる甘えられることへの不快感情の種類や質、および、これらの感情がどう捉えられ、どう対処されるのか明らかにすることを目的とする。

ところで土居 (1971) は、「すねる」「こだわる」「気がね」「すまない」等を含む多数の言葉が「甘え」を表現し、質的な違いを有すると述べている。

「すねる」とは、“素直に人に従わないで、不平がましい態度をとる”という意味である (大辞泉)。土

居 (同上) でも、“すねるのは素直に甘えられないから”とされ、“すねながら甘えている”と記述される。

「ひねくれる」は甘えることをしないで、却って相手に背を向ける様子を指すが、実はひそかに相手に対し“含む”ものを持っている。土居 (2001) は、「すねる」や「ひねくれる」等について、“これらはすべて何らかの形で相手につながっているといつかあるいは引っかかっている点で一致している”として、実はまだ甘えが志向されている状態であることを指摘している。

「たのむ」には、こちらの希望を相手に依頼するという意味の他、“たよりになるものとしてあてにする。力としてたよる”という意味を持つ (大辞泉)。土居 (1971) では、甘えの言い換えとして「たのむ」をあげている。そして、他者に素直にたのんだりゆだねたりということができず、物事にこだわったり気兼ねしたりする様子も、素直に表現されない甘えと捉える。「こだわり」「気兼ね」は、神経症的に物事に「とらわれ」ることと関係し、相手に甘え、満足を得ようとするために、相手の様子に鋭敏に反応し、自分の気持ちが左右されるという不合理な関係の成立に繋がる (土居, 1957)。

「すまない」という語が、相手に迷惑をかけたことへの“謝罪”の意味だけでなく、相手の親切に対する“感謝”という別種の意味を持つことについて土居 (1971) は、相手の親切にかかった若干の負担に対して「すまない」と謝罪しないと、相手の好意を失う不安を感じるからと解釈する。つまり、今後も甘えさせて欲しいという気持ちを含んだ態度であるとして、親切に対する「すまない」は甘えの一つとされる。

本研究でも、甘えられることに起因する不快感情の要因として、これらの甘えの質に注目し、検討を行う。

II 方法

1. 調査手続き

5 年以上の現場経験のある臨床心理士 7 名 (Table. 1) を対象に半構造化面接によるインタビューを行った。インタビューは対面あるいはオンラインで実施した (調査期間 2023 年 10 月～11 月)。1 人あたりのインタビュー時間はおよそ 60 分であった。なお、本研究は福岡女学院大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

Table.1 研究協力者の属性

協力者	性別	臨床実践年数	主に従事している業種
A	男性	35	その他 (心理相談)
B	女性	15	教育
C	女性	15	教育
D	女性	8	教育
E	女性	7	医療
F	女性	8	その他 (心理相談)
G	女性	8	教育

2. 質問項目

甘えの質に注目するため、甘えの多義性を扱った先行研究 (内田, 1998; 谷, 2000) および土居 (1991) 参考に、5 つの甘えの様子を想定した (Table. 2、Table. 3 参照)。甘え A～D は、内田および谷の甘え尺度の質問項目を参考にしている。甘え E は、土居 (1991) の記述を参考に筆者が作成した。内容の妥当性や表現については、大学院生 2 名および教員 1 名と合議し、適宜修正を行った。

インタビューでは、協力者に対し、各甘えを向けられた経験の有無とその状況を尋ね、協力者が経験した感情、その感情が生じた理由、その後の対応について尋ねた。

Table.2 「甘え」5種類

A	物事が思い通りにならないと、苛立ちすねた態度を見せる	(すねる)
B	何か困ったことがあると、自分の力ではなく、誰かの力をあてにする	(たよる)
C	自信をもって物事を決められず、ささいなことにとらわれやすい	(とらわれ)
D	悲しいことや悩みがあると慰めを求めて相談に行く	(慰め)
E	周りの親切に対して、「すみませんでした」とお詫びしようとする	(詫び)

Table.3 5つの甘えの属性

甘え	内田 (1998)	谷 (2000)	土居 (1971)
A	屈折的甘え	屈折的甘え	—
B	依存的甘え	直接的甘え	—
C	とらわれ的甘え	とらわれ	—
D	直接的甘え	直接的甘え	—
E	—	—	「すまない」の甘え

3. 分析

分析方法としてグランテッド・セオリー法 (Corbin & Strauss, 2012) を採用した。また、語りの属性把握にあたり戈木クレイグヒル (2008) を参考にした。

切片化した語りにディメンションとプロパティを付与後、切片のコード化を行い、類似するコードをまとめてカテゴリーを生成した。最後に、甘えられて生じる内的反応から対応までの過程をダイアグラムにまとめた。分析中、コードおよびカテゴリーの妥当性を確認するため、臨床心理学を専攻する大学院生 2 名および教員 1 名と合議した。

III 結果

1. 各甘えへの回答数

甘え A (すねる) を向けられた経験があると回答した協力者は 7 名中 6 名であった。同様に、甘え B (たよる) では 6 名、甘え C (こだわる) では 6 名、甘え D (慰め) では 7 名、甘え E (詫び) では 4 名であった。

2. 各甘えのカテゴリーとダイアグラム

全甘えに共通する上位カテゴリーとして、「反応」「支援者の構え」「対応」が抽出された。「反応」は、支援者が各甘えられて内的に体験した感情や思考である。「支援者の構え」は、対象の甘えへの応答にあたり参照される臨床的な態度や姿勢、または、自身の内的な反応を扱うにあたって拠り所となる考え、あるいは、その後の対応に繋がる知識等である。「対応」は、反応や構えの過程を経て、実際に支援のために行った行動である。各甘えにおいて抽出されたカテゴリーを Table 4～8 に示す。

各甘えのダイアグラムを Figure 1～5 に示す。図中、実線は語りから確認できた作用を示す。長二点鎖線は語りから確認できた繋がりを示し、共に活性化していることを表す。破線は語りからは直接確認できなかったが、推測できる作用や繋がりを示す。

Table 4 甘えA「物事が思い通りにならないと、苛立ちすねた態度を見せる」のカテゴリー (協力者数6)

上位カテゴリー		中位カテゴリー		下位カテゴリー	人数	発言例	
反応(6)	感情(6)	不快感情(6)	不安・恐怖(2)	攻撃的態度への動揺	2	・やっぱりそういう言葉をかけられた時には ドキッとしたかな	
				焦り・気まずさからくる不安	2	・不安 焦りとかあるかもしれないですね どうしようどうしてこうとかあるかもしれないですね どうしたらいいんだろう という感情 まあ不安ですかね	
				傷つけられることへの恐怖	1	・自分の中でなんかこの子に変なこと言われたら嫌だなとか	
				対象の感情を共有(恐怖)	1	・私は怖いっていうのはあるんで まあ 本当に怖いんだろうな っていうのが率直に伝わる。よく表現してくれてるなーってのは感じる	
			苛立ち・怒り(4)	攻撃的・敵意ある態度への苛立ち	3	・結構否定…言葉じゃないけど態度とか、言ってくる言葉がとげがある言葉が多くなっちゃうから、どうしようもない気持ちるをぶつけられるから、否定された気持ちになるかな。だからたぶんイラッとするとんだと思う	
				配慮を強制されることへの苛立ち	1	態度が とてつもなく悪いという結構こっちが相当 変に気遣いながら 下手に出るような感じで喋らなきゃいけないから、すごくだるいなあって	
				対象の感情を共有(苛立ち)	1	・自分の感じることとかそのクライアントさんからもらっているものがすごく多いからきっとクライアントさんも自分に対してそれを感じてるのかもしれないし 外の世界に対してそういう感情があるのかもしれないから。自分だけの感情じゃないんだろうなというのすごく…何かをもらった感情 なんだろうなと思う	
				分からなさから来る苛立ち	1	・(苛立ちが出ない時について)その子の状況を聞いている時とかですかね 親からとか 何かあったとか 学校で何かあったとか家で何かあったとか友達と何かあったとかそういうのが分かっている時にもかもしれないです 何もわからない時には苛立ちが先に来るのかもしれないです	
		理不尽さへの苛立ち		1	・(苛立ちの内容については)一番近いのは、理不尽だなあかな。言っていないのに言ったことにされている理不尽さにイラっともするし		
		恐怖からくる苛立ち感情		1	・(自分の感情に名前をつけるとすればどうか)怖さがあるんだろうな思うんですね。イラつきと怖さがすごくあるなあと思う気持ち		
		自責(2)	自分に非がある	2	・不快というよりも「え！」っていう自責 何が悪かったんだろうという問いを立てます		
			非難されて不甲斐ない	1	・反省と、自分がちゃんと伝えられなかったなあって言う不甲斐なさや次に起こるかな、気持ち的には。ごめんねって思います。そう思わせてしまっ		
		非不快感情(2)	安堵(1)	感情を出せることに対する安堵	1	・ここまで素直にね 感情を表現するというのは なんか 自分の中ではちょっと安心材料にもなる	
			憐憫(1)	他の表現を知らない様子への憐憫	1	・こういう言い方をしたら失礼なんですけど こういう発言や態度でしかいられない辛さ みたいなものを感じる	
	感情以外(2)	—	不思議(1)	何が対象に生じたのか	1	・セラピストとしてこの人とお会いしている時としては「おやおや」って思う。何が起こったんだろうって考えます	
				なぜ対象はこの様子を見せるのか？	1	・物ねた態度や苛立ちをなぜ見せているんだろうという風に考える	
支援者の構え(5)	—	不快感情に振り回されないための構え(4)	甘えに向き合う覚悟をする(2)	仕事のため投げ出さずに関わる	2	・でもね仕事だから どう関わっていくのをつとー一緒にいながら考えてって感じですね	
				感情的に関わらない	1	・イラッとはするけど プライベートの場面では違うから 表情では出さないし自分の中で浮かぶもやっとしたものとかがちょっと嫌な感情 みたいなのは出るけど	
			不快感情に振り回されないための構え(4)	支援者にも人間的な側面があることを許容	1	・その瞬間瞬間は人間だから カウンセラーだからと言っていつも仏の心でいるわけじゃなくて	
				経験による成長がある(ので感情を抑えられる)	1	・同じ体験を若い時に、臨床経験が浅い時にしたらもっと巻き込まれてたかもしれない。でも経験していくとそんなに嫌われることへの恐怖というかわ合わない人は合わないだろうって思えるので	
				不快感情を抱くことは悪でない	2	・その感情(※苛立ち)を感じること自体については 私は 否定的ではないので。その感情を持たっという自分に対してそんなに悪いとは思わない	
				対象によってこちらの反応も異なることを許容	2	・その子の子によって違う。こっちの気持ちも違ってきちゃう。何をされたとかじゃなくてですね	
				そうせざるを得ない対象を許す	3	・何があったんだろうってとかは考えるんですけど、それに対してずっと怒り続けるとかはないので、そうせざるを得なかった何かがあったんだろうなっていうので答えを出してる	
				十分な対象理解はできない	1	・何で苛立ったかは考えるけど答えはいつも出ません。まあ、自分の中にはこれかなくてという答えはあるので終わらせようとはするんですけど結局	
		甘えの価値・意義を意識(3)	甘えを対象理解に活かす	2	・イラッとしたその先が大事だと思う そこはよく考えるようにしています 何で私はこんな感情になったのかな 絶対にそこに何か意味があるから		
			甘えを支援に活かす	2	・そういう時こそ、攻撃的な態度とか甘えの態度とかされた時こそ、時間を取って向き合ってあげることによってちょっと変化するんです		
		対応(6)	—	一次的な対応(2)	慎重な対応を意思する	1	・どうにか対応していこうっていう気持ちになるというか、慎重にして行こうって思える
					反省して対象を少し見守る	1	・あの時の声掛けがこの子には伝わらなかったんだって、反省じゃないけどそっかあってちょっと受け入れて、愚めな言葉をちょっとかけてとりあえず落ち着くまで置いておく
					対象の傷つきをひとまず受容	1	・一応失敗体験なので傷ついているのは本人だから、寄り添ってあげる、その状態を受け入れるしかないですね。もうわーってなっている時は何を言っても聞かないのでとりあえずはその状態になっている本人を受け入れて、とりあえず落ち着くまで待つて話を
					そうせざる得ない事情を考える	3	・本来に來たくないんだろうなっていうのがすごく伝わって多分色んな警戒っていう、外への怖さみたいなのがすごくある子だからそういう態度なんだろうなと思う
				甘えを対象理解に活かす(5)	対象の背景事情を考える	2	・ここでも(主治医と)話し合っって何が起こったんだろうっていうことを総合的に情報を集めて考える。面接室の中だけで起こったことが原因ではないこともありますがね家庭とか学校とか入院先とか
					対象の苦しみ・問題を見立てる	2	・本当にここで展開されている関係性はクライアントが日常の色々なところで 他者との関係において起こっていることなんだっていう風に捉えられる
対象の特性・性質を考える	1				・悪いこととか生じなければいいこととかそういうふうには思わない。本当にその人らしさとして見ている。いい悪いとかいう視点じゃなくて		
二者間で起こった心的現象について考える	3				・イラッとしたその先が大事だと思う そこはよく考えるようにしています。何で私はこんな感情になったのかな 絶対にそこに何か意味があるから		
甘えの様子を話題にする	2				・できるところでは「どうしたの」って聞きます		
甘え支援に活かす(3)	甘えの気持ちに應じる				2	・その子も常に不安。その不安をなくしてあげるためにはその子との時間をちょっと確保したりとか、その場から離れる時は見通しを持たせたりとか。(すると)その子も何分後には戻ってきてくれるっていうことが分かって、何分後に戻ってきてねとかそういう感じが返ってきたりとかしたので	

※0は人数を表す

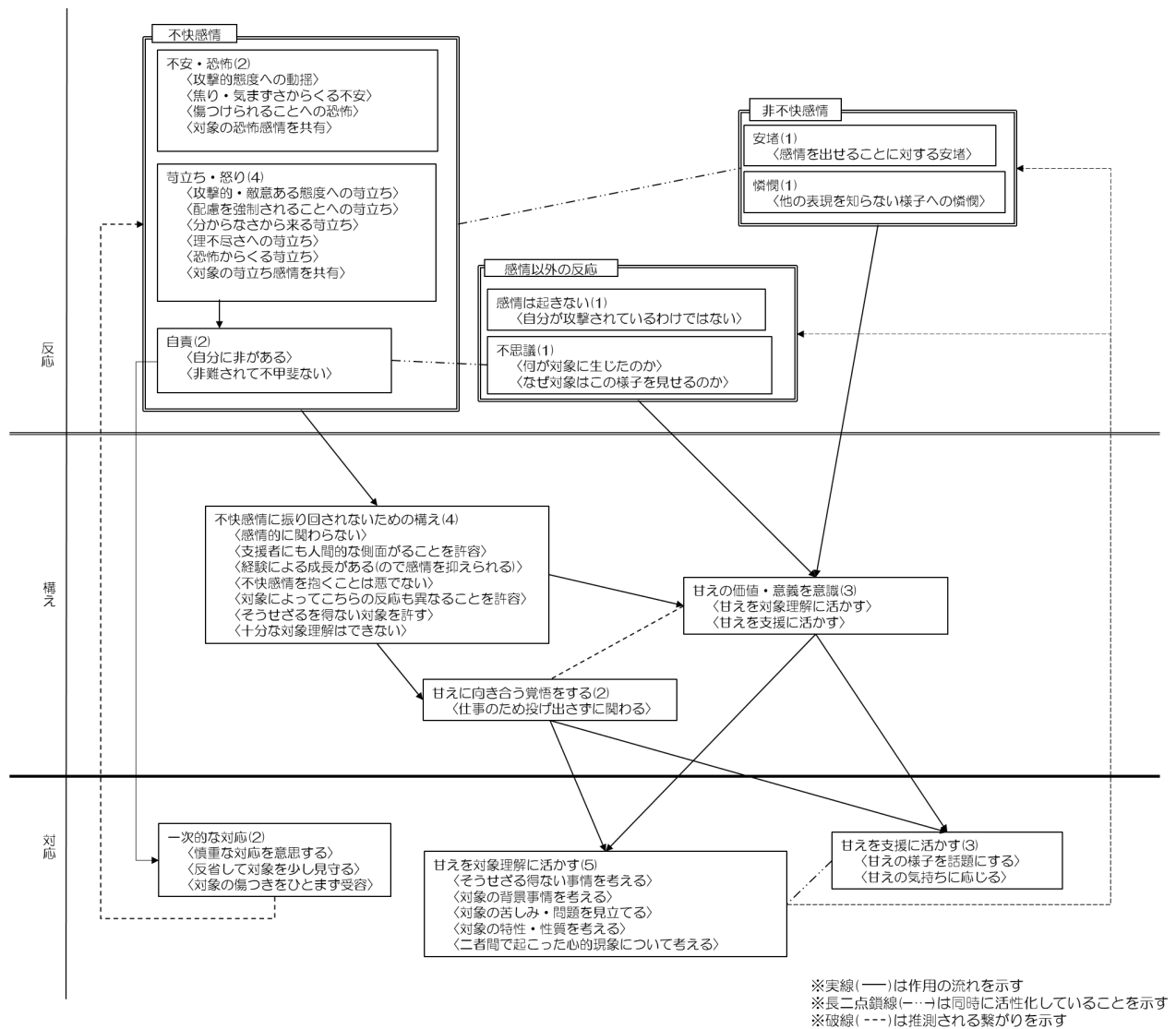


Figure.1 甘えAを受けた支援者の反応から対応までの過程

Table.5 甘えB「何か困ったことがあると、自分の力ではなく、誰かの力をあてにする」のカテゴリー（協力者数6）

上位カテゴリー			中位カテゴリー	下位カテゴリー	人数	発言例
反応(6)	感情(6)	不快感情(5)	辟易・嫌悪(3)	手間がかかることへの辟易	2	・代わりにやってくださいみたいなことはあるかな。そこはちょっと、はあ？って、できるやろうって。甘えられてるって感じがする
				適切な支援ができない自分への嫌悪	1	・やっぱりなんか、その場しのぎのようなことを言っていくるめるようなになっちゃうんで、それが嫌だなんて思いながらしゃべるかな
			苛立ち・怒り(2)	依存的な様子への苛立ち	2	・でも本当は自分で身につけた方がいいのに、繰り返し人に頼る時はもうちょっと自分で考えたら、みだいな、イライラはありますよね
				身勝手さへの怒り	1	・人の都合も聞かず、こっちも力を貸したいと思うので必死にはなりますけど、自分勝手だなーっていうのすごくイライラしたのを覚えています
		非不快感情(2)	不安・恐怖(1)	焦り・気まずさからくる不安	1	・焦りもあるし、こういうクライアントさんと会うとやっぱり自分のできることって限られてるんだなって無力感の方も二、三割あるなって感じ
						・これはあまりイラッとか不快感情とかというよりは今それが必要なことであれば、声をかけてくれてよかったっていう風に受け取って対応する
	感情以外(2)	不思議(2)	不安(1)	支援を求められることへの安堵	1	・大人の人でこのことに困り感がないと、違和感を伝えますよね。逆転移としてもそういう「おや」とした感じ
			驚き(1)	自分でできないことに困りがない対象への驚き	1	・何とかできないのかってね。子供であればねしょうがないけどね。子供だよ、自分の力で何とかできないっていうのはね、なんでかなって思いますね
						・何となくそういう「おや」とした感じ
						・何とかできないのかってね。子供であればねしょうがないけどね。子供だよ、自分の力で何とかできないっていうのはね、なんでかなって思いますね
支援者の構え(4)	—	甘えに向き合う覚悟をする(2)	この様子に付き合う覚悟	この様子に付き合う覚悟	1	・今はそういう臨床をしているんだっていう時間だったら、こちらも頑張らないといけない
						・いやでもねみだいな、自分の力量ってここまでだからみだいな。自分のできる範囲でお答えできることは答えてとか想像してとかできることしかないようにしていますかねこういう人は
			不快感情に振り回されないための構え(2)	感情的に関与しない	2	・（この感情どう理解して対処に繋がったか？）まあ、そのイライラした感情を表には一応出したらいけないって思っていて
						・むしろ困った時に誰も頼れない、助けを求められない方が問題だから、まずは求められているところはいいこと
			甘えの価値・意義を意識(3)	甘えを対象理解に活かす	3	・結局すごく家族の根深い問題をずっと抱えてきているから、正直今更それをなんか何かして変えるっていうのは、多分、難しいんだろうなって
						・見立てでもあるけれど、ずっと見てた経験からやっているとこはあるので
			心理支援全般に通じる姿勢(2)	信頼関係を育てることを重視	1	・突き放されたってならないためには二者間の信頼関係が十分に育っていないとだめでしょうね
						・でもちょっとわからない厳しくいつもより言っていることもあるかもしれない。基本そこは聞きながら考えてるかな
			対象の成長を重視する(2)	聞きながら臨機応変に対応を考える	1	・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・でもちょっとわからない厳しくいつもより言っていることもあるかもしれない。基本そこは聞きながら考えてるかな
対応(6)	—	一次的な対応(3)	不快感情を制御	対象の自律を目指す	3	・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
対応(6)	—	教育的対応(4)	対象の自律を目指す	甘えの要求を一部受容	2	・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
対応(6)	—	甘えを対象理解に活かす(3)	対象の苦しみ・問題を見立てる	そうせざる得ない事情を考える	2	・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
対応(6)	—	甘えを支援に活かす(2)	対象の苦しみ・問題を見立てる	そうせざる得ない事情を考える	1	・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね
						・（どうするのかの考えは）なるべく本人から引き出す。引き出しがない時には選択肢ご本人のスキルにつながるような関わりをしますかね

※0は人数を表す

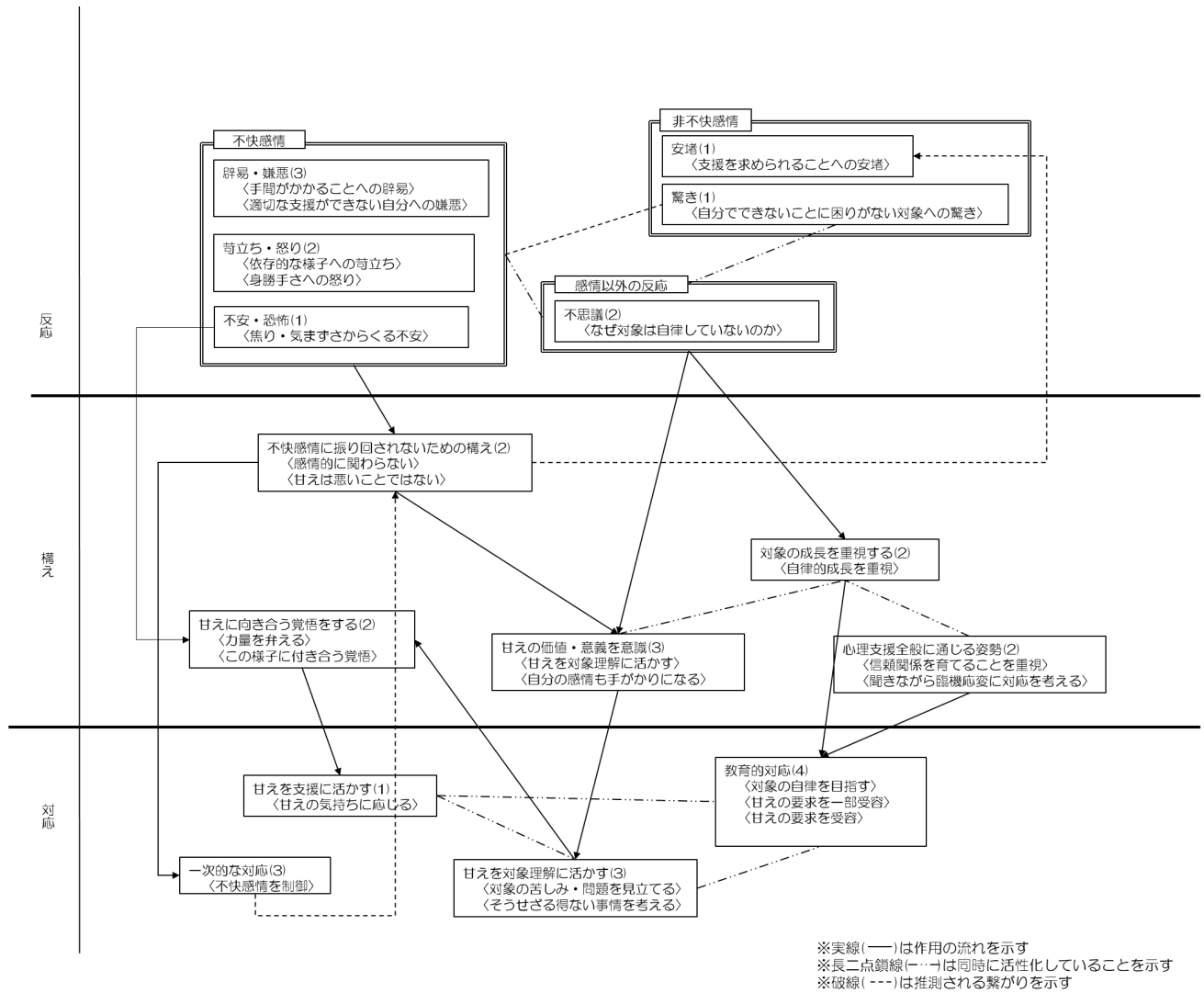


Figure.2 甘えBを受けた支援者の反応から対応までの過程

Table 6 甘えC「自信をもって物事を決められず、ささいなことにとらわれやすい」のカテゴリー（協力者数6）

上位カテゴリー			中位カテゴリー	下位カテゴリー	人数	発言例
反応(5)	感情(5)	不快感情(4)	辟易・嫌悪(2)	枠外での甘えに対する辟易	1	・（枠を超えるとどうか？）バタバタ忙しくしている時に、また来たみたいだな感じだと、あーいま？みたいなの
				不合理な様子へのもどかしさ	1	・言っても伝わらないから、こういうところあるよとか、こういうところあるから自信をもってちょっとやってみてって言っても伝わらないから、もどかしさがある
			苛立ち・怒り(2)	変わらない態度へのもやつき	2	・長く関わっているけれど変化が乏しいような人がいますよね。それ自体がその人の難しさなんですけど
				こちらの声掛けを否定することへのもやつき	1	・行けない子は、そんないいわれてもみない。でも無理だからみない。もやっとするかな。
			不安・恐怖(1)	困窮する対象を心配する	1	・ずっと固まっている…心配とかなんですかね。こっちが決めたい方がいーいんかになっていう心配…大丈夫かなって心配にはなる
				困りが無くなるように介入したくなる	1	・（何かしてあげたいが出てくる？）うんそうですね こっちがどうにかしてあげたい
		非不快感情(1)	面白い(1)	そうせざる得ない事情を知る機会	1	・私は面白がってしまうんですね。なるほどって。自分はこういう人 すごく好き。おおそこかーって、その人の自信のなさの現れとか不安とかなんですそこがそんなに気になるんだらうなとかこういう人の話を聞いていくとやっぱりそこがすごく気にならざるを得ないことがあるんだってというのが すごく 分かったりする
				対象の特性を知る機会	1	・すごくなんかね、なんか 外に出て電車に乗ってて周りの人の目とか声とかがすごく気になるみたいな所があったりしてなんでそんな気になるのかなんて思ったらやっぱり何か言われた体験があってみたいなのとこで。面白いですよ守り方があるのとか思ったりする
		感情以外(4)	感情は起きない(4)	受け止める構えがある	3	・お仕事として出会うとそれが問題だから出会うのでそれを向けられたから自動的にイラッとはしないです それが多分こういう仕事場面とプライベート 場面 での違いだと思います
				長所に気づいてほしい	1	・本音を言うともっと自信もっていいのになって思います。人には得意不得意があるからあなたにとってこれは得意だけこれは得意じゃんって、それをつなげて考えればいいのになって言うふう思う。でもそうだな、あんまりこれに対しては不快な感情は抱かないかな。
構え(4)	—	甘えに向き合う覚悟をする(3)	この様子に付き合う覚悟	この様子に付き合う覚悟	3	・（面接中だと不快感情がないことについて）自分で決められないって例えばずっと親御さんの言いなりに生きてきたとか自分で決めたことも否定されて来たとか何かしらその人の事情があるので、決められなくて当然だよ、満たされないこと思う
				わからなくても対象の様子を尊重する	1	・やっぱり そこを気にしておかないと危ないことがあると思って…こっちにとっては わけわからないことを気にしてるなって思うんですけどその人なりのその 気にする理由がすごくあるなって思うと
		不快感情に振り回されないための構え(1)	期待から裏切られた不快が生じる	期待から裏切られた不快が生じる	1	・ここらは変わってほしい変化を期待する。こちらのおこがましきなどもあってそれがイラッとするに繋がってたりするだろうからもやっとしたりイラッとしたり
				対象の特性を知ることへの興味	1	・本当だからその人が何でそこに怖さとか自信のなさを感じるんだらうって考えるきっかけにすごくなるなと思ってやっぱりだからそこをすごく詳しく聞きたくなるし
		正常な人間のイメージ(1)	この様子は大人にはふさわしくない	この様子は大人にはふさわしくない	1	・あなたにはそういうところがあるねって共有します(どうしてですか？)だって大人じゃないじゃない
				この様子は大人にはふさわしくない	1	・（面接中だと不快感情がないことについて）自分で決められないって例えばずっと親御さんの言いなりに生きてきたとか自分で決めたことも否定されて来たとか何かしらその人の事情があるので、決められなくて当然だよ、満たされないこと思う
対応(5)	—	一次的対応(2)	不快感情を制御	不快感情を制御	1	・最初ちょっとイラッとする時もあったも、見立てを先にしっかりしているから、その子に立ち戻る。そこに意識を向けてぐっとこらえてそれは当然だよって思うようにしますかね。ずっとイライラしたまま対応とかはない
				気分転換をさせて落ち着かせる	1	・（どう対している？）一旦、気分転換をしに行きます。校内とかグラウンドとかに行きかけて散歩して、落ち着くじゃないですか、とりあえずその時はそれで終わって
		教育的な対応(3)	対象の自律を目指す	対象の自律を目指す	2	・そこはもう自分で決めれるような促しというか、いろいろ助言はするけど、最終的に決めるのはあなたよねみたいなのとこでこの場合は対応してますね
				自信がもてるよう働きかける	1	・挑戦してみたら？とかは言います。その子の良い所と、悪い所も伝えたりするけど、でもカバーできている所があるよって伝えてちょっとやってみたら？とかいいますね
		甘えを対象理解に活かす(3)	そうせざる得ない事情を考える	そうせざる得ない事情を考える	3	・多いんじゃないですかね 依存的な人とか経験不足とか過保護 過干渉で育て 主体的に生きてこれなかった人とか自分で物事を決められないとかわからないとか
				対象の特性・性質を考える	1	・（対応はくわしく取り扱っていくことになる？）ですね 自分の守り方とかさういうところを色々考えますね なんか 精神分析とかすごく好きだから 多分 すごく考えてしまうのかも知れない
		甘えを支援に活かす(2)	甘えの様子を話題にする	甘えの様子を話題にする	2	・（どう対応するか？）セラピストとしてだったらクライアント理解に活かすし、組上に載せる
				甘えの気持ちに應じる	1	・なんかいたるところに不安があるんだらうな って感じてやっぱり全部私が引き受けて聞いてしまう感じがしますね
				事情を確認・整理	1	・やっぱりなんか 時間をかけてでも一緒に関係を持ちながら聞いていくとすごく この人の行動がわかるなっていうのがすごい 多いですね 私は

※0は人数を表す

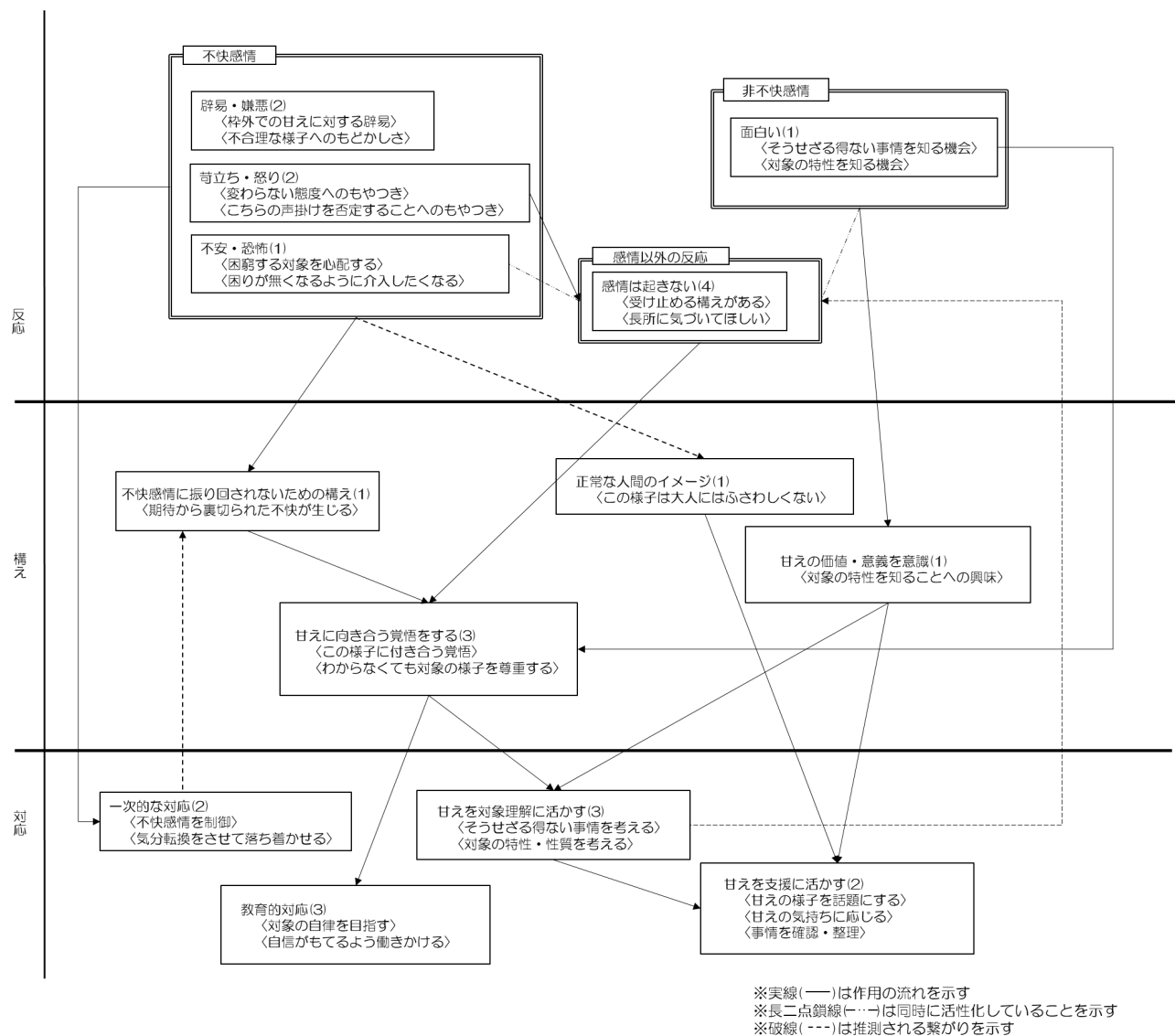


Figure.3 甘えCを受けた支援者の反応から対応までの過程

Table.7 甘えD「悲しいことや悩みがあると慰めを求めて相談に行く」のカテゴリー (協力者数7)

上位カテゴリー			中位カテゴリー	下位カテゴリー	人数	発言例
反応(7)	感情(6)	不快感情(4)	辟易・嫌悪(2)	枠外での甘えに対する辟易	1	・面接場面はまだいいんですけど面接外のところで、特に1日何回も来たりだとか面接の予約とかとってない中でキツ
				終わりの見えない話への辟易	1	・堂々巡りみたいな。まだ話続くの？みたいな。さっき話した…悲しいを分かってもらいたいからしょうがないだけ
				対応せざるを得ない辟易	2	・面接以外の場面とかでも支援とかもやうてるので来たら対応するしかないのよ
			不安・恐怖(1)	不適切な対応をしてしまうことへの不安	1	・(不安な気持ちはあるか?)あります 不安な気持ち 自分からあんまり言わない子はデリケートな問題なので私が言った
				対象の感情を共有(不安)	1	・不安を感じている時は相手も同じ不安を感じているのかもしれないのよ
				対象の感情を共有(悲嘆)	1	・壮絶なお話を聞く場合があるので、そういう悲しみとかは一緒に体験して一緒に苦しくなる そういうことはあるかなと
			苛立ち・怒り(1)	対象の脆弱さへの苛立ち	1	・そんなじゃあこれからいろんなこと つまづいちやうよとかなんかちょっとネガティブというか攻撃的な感情を抱く時が
		非不快感情(3)		役立ちたい(2)	2	・悲しいこととか悩んで一緒に解決してあげたいなっていつもと様子が違うといつものようになって欲しいなっていう
			驚き(1)	1	・驚き…不快じゃないですね。頼る場所に相談できる力があるんだって。ポジティブな感情だったっていうと	
			感情以外(4)	—	不思議(1)	1
感情は起きない(3)	2	・これは一番受け止めやすいんじゃないですかね 別にイラッとしもしない しもやっともしない 相談業務って8割 9割がこれ				
	1	・こういう人とあっていると私はあんまり戸惑いとか感じない 困った感じがあんまりしないんです。することがはっきり				
支援者の構え(5)	—	心理支援全般に通じる姿勢(3)	甘えに向き合う覚悟をする(2)	2	・領域に関わらず何かに困っていたり悩んでいたります。苦しい悲しいこととか受け止めやすい。怒りとかより受け止めやすいししっかり共感をして受け止めるところかなと思う	
			甘えの価値・意義を意識(1)	1	・同じ感じを持ってるのでそこは自分の感情を見ながら相手の見ながらっていう感じ。距離感とかも考えながら自分の	
				常日頃から心理の視点で居ることを重視	1	・オフの時も常にね 心理士の心でいることは大切だと思う
				対象のその後の成長に影響することを意識	1	・やっぱり カウンセリングに来ている子供を対象に 私はしているので、自分が SOS を出しているサポートは残りやすいんじゃないですか、その子の人格形成とかにも繋がっていくと
				表面的でない確かな共感を重視	2	・この人が何でここまで気になってるんだろうとか悲しんでるんだろうとか多分一度じゃわからないんですよ。だから確認して確認してようやく共感したいなねざらいい…慰めみた
				公平な態度を重視	2	・そういう子も迷いながら、あんまり慰めると可哀想なことをされた人認定みたいになっちゃう。それが助長されない
			苦しみに寄り添おうとする姿勢を重視	2	・(対象の苦しみを聞いて)それはカウンセラーとして求められる資質 受け止めやすい 苦しめと言いますかね…こういう	
			対象の成長を重視する(1)	1	・教育機関なので育てる視点みたいところ…受け入れつつでもちょっと10分だけだったらいいよとかそういう感じで加	
			正常な人間のイメージ(1)	相談室への来談は本来普通ではない	1	・やっぱり学生相談っていうのは ハードル高いです。今もそうだとと思うけど、それにもかかわらず駆け込んでくるって
				この様子は大人にはふさわしくない	1	・自分一人で立てていられるのが大人でしょ。孤独だけれども大丈夫っていうのが大人でしょ。そうじゃなくてカウンセ
対応(6)	—	一次的な対応(3)	ひとまず語りを促す	1	・でも一応 話せる？みたいな感じで聞いたりとが 速いかなあります 私にそういう子に対しては	
			ひとまず対象の苦しさに言及	2	・しんどそうに語っておられるのはすぐわかるから、そこに対してのしんどかったねを言いながら、また後でまた後で	
			不快感情を制御	1	・でも あーもうみたいな感じ また来たいみたいな感じ 足りないのね 多分それじゃあね そこはわかった上で 学生相談は	
		教育的対応(2)	対象の自律を目指す	2	・受け止めたりとかしながらちょっとずつちょっとずつ 育てる満たされないのですと育ててくるからここであつと	
			治療契約の見直し	1	・そういう時は担当を変えようとかそういうのも全然いいよとかそういうことは	
		現実的対応(3)	客観的に語りを聞く	2	・例えばトラブルが起っていてこの人が悪いですよねということをお願いしても悪いですねとは言わない。あなたはそ	
			そうせざるを得ない事情を考える	3	・こういうことをいろんなところで見せる人なんだろうなと思うとこの人の見立てにはなりますよね とか 親との関係とか こういう親御さんだったからちょっと甘えたいとかじゃな	
		甘えを対象理解に活かす(4)	対象の背景事情を考える	1	・友達や親や兄弟に話せないのがあって。そこでも 問いが立つし カウンセラー だなんて	
			望むものを想像	3	・あんまり 受け止められた感じがしなかったのかなこういう人ってどうやって聞いてあげるのがいいんだろうっていうの	
			対象の苦しみ・問題を見立てる	2	・その子の見立てこういう動きをする子 理解に繋がりますよね こうやってなんか 被害感とかに代わって 誰も私を受け	
甘え支援に活かす(4)	甘えの気持ちに應じる		3	・ご本人の体験している 悲しみの深さとかを一緒に想像しながら 共感したりとか…慰めを求めて、ただ悲しいから、吐き		
	事情を確認・整理	3	・その時の情報を整理しながらこういう所が嫌だったんですね その人の 嫌だった ポイントとか一緒にそれを再確認			

※0は人数を表す

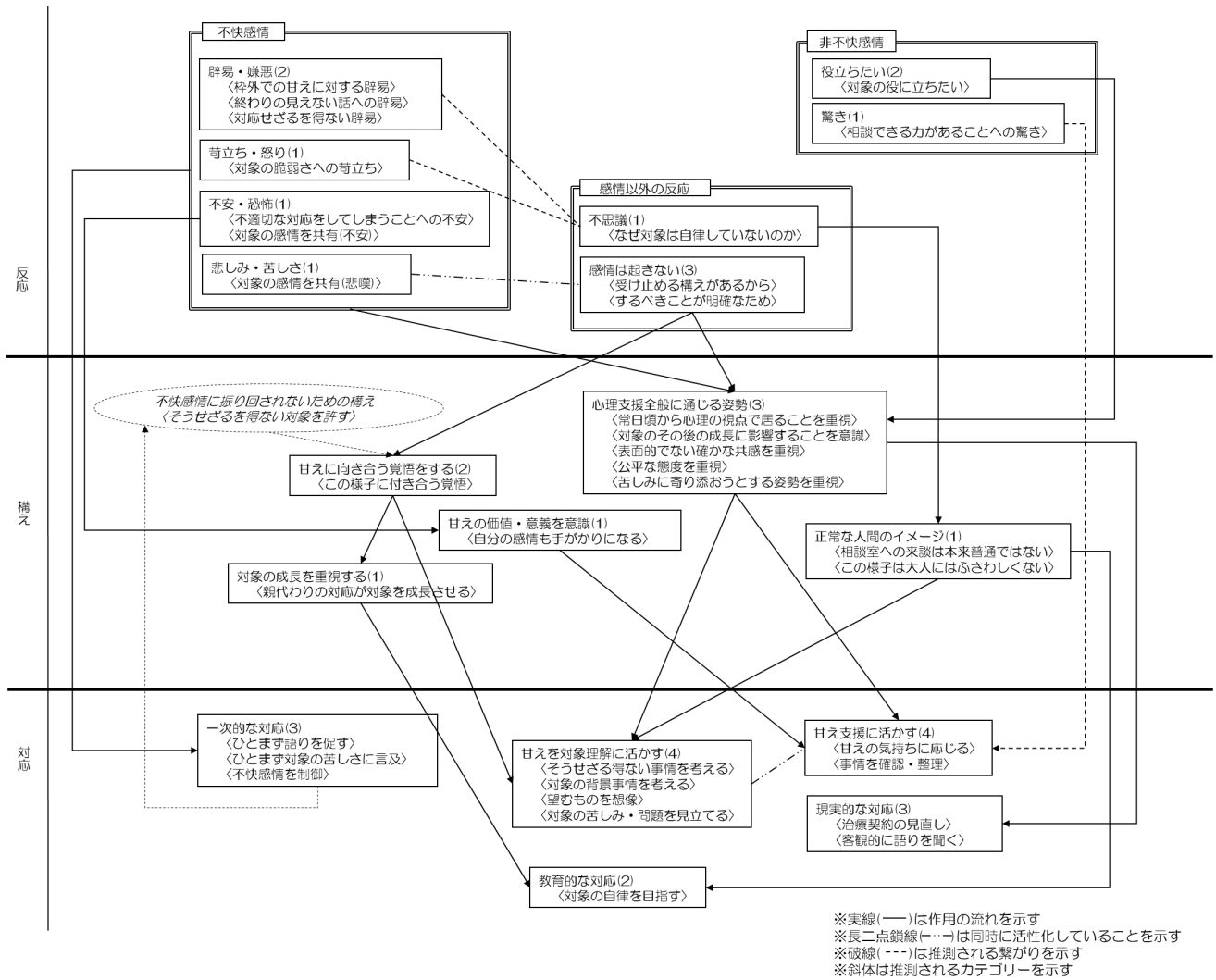


Figure.4 甘えDを受けた支援者の反応から対応までの過程

Table.8 甘えE「周りの親切に対して、「すみませんでした」とお詫びしようとする」の 카테고리 (協力者数4)

上位カテゴリー			中位カテゴリー	下位カテゴリー	人数	発言例
反応 (4)	感情 (4)	不快感情 (4)	辟易・嫌悪(1)	不合理な様子への呆れ	1	・ちゃんとお金もらってますよ、私、ということ クライアントに思う。 なんだかなこの人っていう風に思いますかね
			苛立ち・怒り (2)	変わらない態度へのもやつき	1	・自分の言ったことがあんまりこの人の芯のどこまでは伝わってないなって感じがあって、難しいなってこういう人が来たらすごい難しい感じが私はある
				攻撃的・敵意ある態度への苛立ち	1	・本当に しつこい人がいることがありますね そういう人とかはちょっと不快感情が出ます。 なんだかもやっとする イラッとするというか、 見方を変えれば消極的な攻撃性にも取れる
				配慮を強制されることへの苛立ち	1	・周りを過剰にすみませんって言って、周りにいやいやそんなことはありませんって言わせるまでをセットにして周りの人をコントロールする人。 無意識レベルかもしれませんが
			悲しみ・苦しさ(1)	自責的な対象の様子を辛く思う	1	・なんかその子の口癖みたいになってることがあったりするとちょっと、 いたたまれない気持ちになりますよね
	感情以外(2)		不思議(2)	対象はなぜこの様子を見せるのか？	2	・合理的ではないことが 自分との対人関係で起こっているわけなので、 その合理的ではないことに対して何が起きているのかそしてそれはなぜなのか問いを立てる
支援者の 構え (3)	—		不快感情に振り回されないための構え(1)	面接はあくまでも仕事	1	・こっちはセラピストですからこの50分はこの方が買った時間だから
			甘えの価値・意義を意識(2)	対象の特性を知ることへの興味	1	・その人の態度とか言葉とかを一人で考えるのが結構好きだから面接が進んでいくとやっぱりその人がそう言わざるを得ないような感じの事ってわかってきたりするんで引き受けてその人と一緒に付き合っていくって感じかな
				自分の感情も手がかりになる	1	・(居たたまれなさなどはどう支援に生きてくるのか?) その場で返すというよりは その後の見立てにつなげた上でその子の面接の中で 言葉として伝えることはありますよね
			対象の成長を重視する(1)	自律的成長を重視	1	・共同注視して、一緒に何だろうねってセラピストと共に問いを立てることを何度も何度もやるので、 次第にね数年経つ中でその人に取り入れられていく。 問いを立てる構えがね。 自分で問を立てて自分で考えられるように…専門家の手を借りたり対価を払ってじゃなくて…そういうことができるようになったら卒業
対応 (4)	—		一次的な対応 (2)	安心感のある声かけをして落ち着かせる	1	・でもそんな風な気持ちになるんだよね、 みたいな。 ちょっと安心、 安全感を持ってもらうような声かけとかを日々やってるかな
				行動の必然性を認めてこられる	1	・だからと言ってそれを本人直接行ったところで多分本人は気づいてないところの感情だろうと思うと、 その言われたことも引き受けるしかないんだろうな
			教育的な対応 (1)	自信がもてるよう働きかける	1	・学生相談とかであつたら、 親切に対して「すまない」が返ってくるようであつたら、 心理教育的に、 いやいいんだよあんたまだ子供やけんあんたの権利よと教えたりする
			甘えを対象理解に活かす(3)	対象の苦しみ・問題を見立てる	3	・もしかしたら相手にその言葉を言ってほしかったかもしれないし、 他のものに対しての怒りがもうなんかちょっとひん曲がって自分に方に戻ってきて、 なんか自分にネガティブになってすみませんって謎のこと言っているとか
				そうせざる得ない事情を考える	2	・そんなに言わなくていいのにねって思いますけど、 そうしか言いようがないんでしょうから
			甘えを支援に活かす(4)	甘えの様子を話題にする	4	・多分同じことがここでも外でも繰り返されてる可能性があるから、 また同じようなことを見たり聞いたり体験したりするような時には「繰り返されてますね」って反復強迫として取り上げる可能性がある
				甘えの気持ちに應じる	2	・一度もう引き受けるしかないですよ謝らなくてもいいですよとは言いづらいと思って(～中略～)面接が進んでいくとやっぱりその人がそう言わざるを得ないような感じの事ってわかってきたりするんで引き受けてその人と一緒に付き合っていくって感じかな

※0は人数を表す

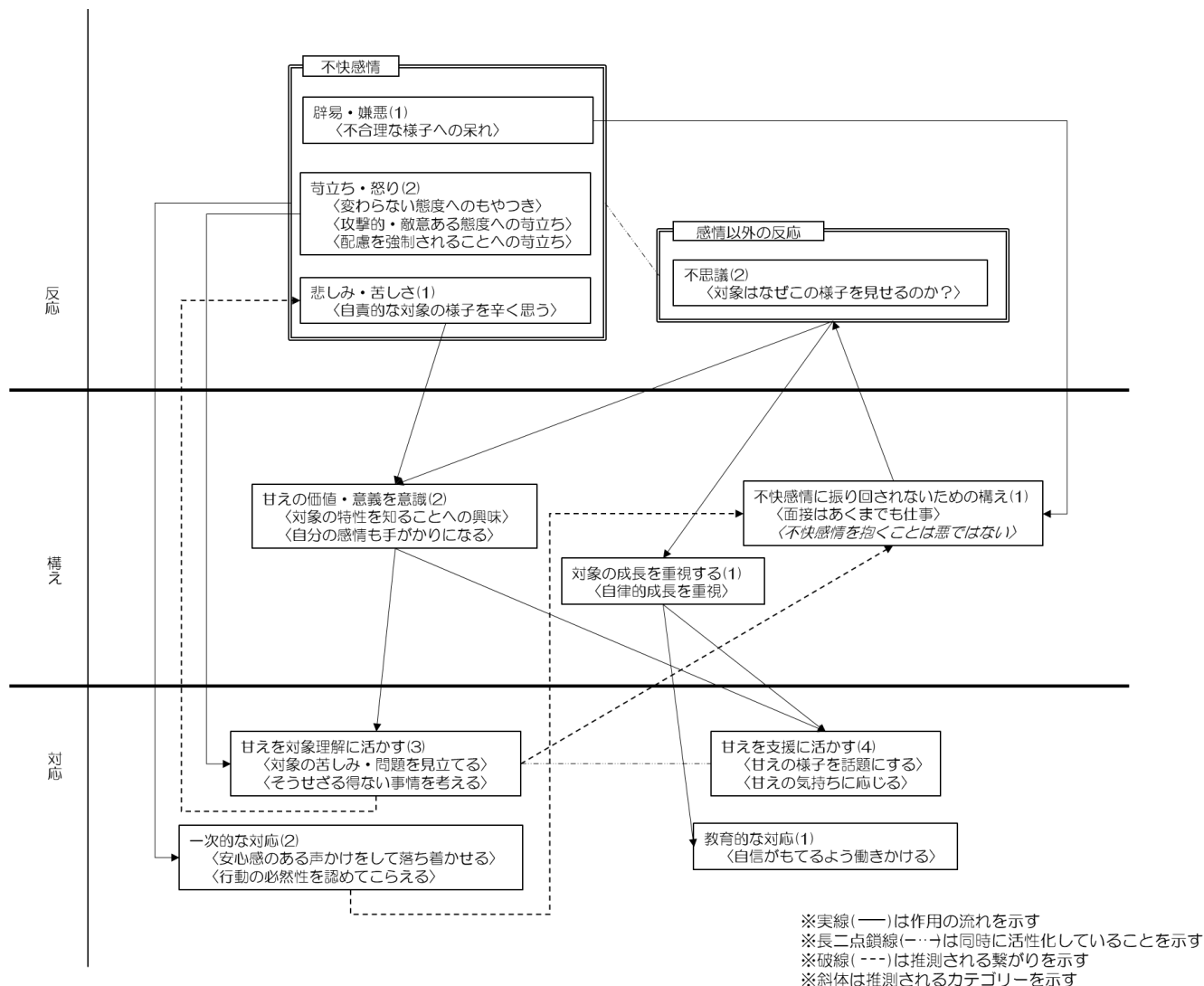


Figure.5 甘えEを受けた支援者の反応から対応までの過程

IV 考察

本研究では、甘えられることでどのような質や種類の不快感情が生じるのか、それらの感情がどう捉えられ、どう対処されているのか明らかにするため、心理支援者にインタビュー調査を行い、得られた語りを分析した。以下、各甘えに特徴的と考えられる反応や対応について考察を述べる。

1. 甘えA (すねる) について

甘えA「物事が思い通りにならないと、苛立ちすねた態度を見せる」に対する反応の主な特徴として、①苛立ちを覚える反応が比較的多い、②動揺や恐怖の感情がある、③自責の感情がある、④憐憫の感情があることが考えられる。このような特徴について、同甘えが、屈折的甘えの中でも苛立ちが観察されやすい「すね」の甘えであり、同傾向が強まれ

ば敵意や攻撃性を支援者に向けやすいことが考えられる。苛立ちや攻撃性に対し、苛立ちや恐怖が生じると推察され、一方で、対象が攻撃性を向けるものに、支援者が同一化してしまうことで自責が生じると考えられる。すねるのは当てが外れて甘えが失敗したためであるが、土居（1971）の甘えの定義の通り、根本として対象が望むような完璧な甘えは成立し得ない。このような、望むべくもないものを切実に望む様子に対して、憐憫があるように考えられる。

支援者の構えおよびの特徴として、①不快感情に振り回されないための構えが比較的多かったこと、②甘えを対象の理解に活かす対応が多かったことが考えられる。同甘えでは下位カテゴリーの種類が他の甘えより多く、様々な方法で向き合われ、支援に活用されていたといえる。この特徴について、まず、同甘えが、素直には甘えを表現しないが、実は

ひそかに周りに対して“含む”ものを持つ複雑な心性を抱えるため、甘えの様子を検討することがより精細な対象理解に繋がる可能性があることが考えられる。一方、同甘えによって生じる反応は、苛立ちや動揺といった揺さぶられの度合いが強くなるものになる傾向があり、これらの反応を鎮めるために様々な考えや知識が参照される、または、対象理解に活かすことを意識することで現在の関わりに納得の感覚を持てると考えられる。

2. 甘えB（たよる）について

甘えB「何か困ったことがあると、自分の力ではなく、誰かの力をあてにする」に対する反応の特徴として、①辟易の感情がある、②焦りからくる不安がある、③驚きの感情があることが考えられる。このような特徴について、同甘えの性質として、依存的事であること（内田、1998）が考えられる。また、同甘えが上手くいくことは、当人においては自らの不適切さが許容されることのため、山口（1999）の示すように、その前段として許容を期待する様子が考えられる。このような期待は精神的に幼いといえ、この心性に対して辟易や苛立ちの気持ち、あるいは驚きの反応が繋がると推察される。ところで、甘えとは、対象の抱える心理的な問題と深く結びつくと考えられ、同甘えの精神的に幼い心性はしばしば無力感と結びつくように想像される。そして、その無力感に同一化することが、焦りや不安に影響すると推察された。

支援者の構えおよび対応の特徴として、①様々な構えや姿勢が参照されていること、②教育的対応が比較的多いことが考えられる。これらの特徴について、同甘えには精神的に幼い心性があるため、これを育成し、対象が自律できるよう働きかけることが重視される傾向にあることが考えられる。特に本研究においては協力者の半数以上が教育関係の支援者であったため、この傾向がよく現れたように推察される。そして、その一方で不快感情から距離を置いて、同甘えに冷静に客観的に関わることも重視されるために、様々な構えが参照され、対応されるように推察された。

3. 甘えC（こだわる）について

甘えC「自信をもって物事を決められず、ささいなことにとらわれやすい」に対する反応の特徴として、①対象の頑なな様子に対するもやつきやもどかしさがあること、②感情は起きないとする反応が比較的多いこと、③面白いと思う感情があることが考

えられる。これらの特徴について、同甘えは、表面的に観察される自信のなさや些細なことを不安に思う様子の背景に、他者に甘えたくても甘えられない不安が想定されるため（土居、1957, 1971）、表層の様子への働きかけでは同甘えの態度が変化しにくい可能性があることが考えられる。また、そのように甘えたいと思う対象に自分の気持ちが依存している様子は、甘えBの様子と同様、精神的に幼いといえる。これらのような性質に対して、もどかしさやもやつきがあると考えられる。一方で、同甘えにおける、甘えが受容されないことへの不安は、甘えが受容されるかに関する統制を甘えられる側に委ねることになると考えられる。Niiya & Harihara（2012）が示す通り、甘えが肯定的に受容される条件には、甘えられる側に統制感があることが含まれ、同甘えにおいてはこの条件を満たしやすいことが、支援者において初めから甘えを受容する姿勢をつくる要因になると考えられた。また、このために心的に甘えから距離を取ることが容易となり、面白いと感じる余裕の起こりに関係すると推察された。

支援者の構えおよび対応の特徴として、①適応した人間のイメージが参照されていることが考えられる。上記の通り、同甘えは表層ではなくその背景に甘えがあるため、この考えを参照することで甘えの部分をつまみやすくなり、その後の支援に活かされると推察された。

4. 甘えD（慰め）について

甘えD「悲しいことや悩みがあると慰めを求めて相談に行く」に対する反応の特徴として、①比較的不快感情は該当しない、②悲しみの感情があることが考えられる。これらの特徴について、同甘えが、内田（1998）や谷（2000）では直接的甘えに位置付けられることが考えられる。直接的甘えでは、周りは対象の甘えたい気持ちを認識しやすい。また、同甘えへの対応は、心理相談業務の内容として想像しやすく、支援者においては、Niiya & Harihara（2012）の示す甘えを肯定的に受容するための条件である時間や活力等のリソースを保有する状態にあると推察される。これらのことが不快感情の無さに繋がると考えられる。そして、同甘えのもつ悲しさや苦しみの感情に共感して、その思いに同一化することから悲しみの感情が起ると推察される。

支援者の構えおよび対応の特徴として、①様々な構え・対応がある、②正常な人間のイメージが参照されている、③現実的対応があることが考えられる。これらの特徴があることについて、同甘えが比

較的不快感情を引き起こさないものの、面接外での甘えなど状況によっては辟易や苛立ちを生じさせること、また、慰めを周りに求めて受容されることを期待する様子は精神的に幼い所があるといえることが影響すると考えられる。従って同甘えへ対し、不快さを制御することや対象を成長させることを目指すことといった構えや対応が取られると考えられる。また、同甘えは、心理相談業務の対象として想像しやすい性質のため、甘えではなく悩みや不安の問題として捉えられやすい傾向があるように考えられる。このため、必ずしも甘えに応じるわけではない現実的対応や、対象の一般からのずれを意識して甘えを確認する姿勢などが取られるように推察される。

5. 甘えE（詫び）について

甘えE「周りの親切に対して、「すみませんでした」とお詫びしようとする」に対する反応の特徴として、①協力者ごとに抱く不快感情が異なること、②敵意や攻撃性への苛立ちがあることが考えられる。これらの特徴について、同甘えは、今後も甘えが受容されるよう、詫びを入れることで相手の好意を維持しようとする性質を背後に持つが（土居, 1971）、これは、甘えCと同様、相手に甘えたい欲求と共にこれを拒絶される不安を背後に抱える状態と整理できる。甘えCでは受容の統制は甘えられる側に委ねられるのに対し、同甘えでは詫びに対する許しの言葉を相手から引き出すことで、受容を統制する性質があると推察される。このように、同甘えでは、いくつかの特性があるため、どの部分に反応するか個人差があるように考えられた。また、同甘えの詫びはもともと相手の親切にかかる負担に向けられるが、そのように詫びなければならないのは、自分はただでは受容されないという意識から来るように考えられる。この意識は、甘えが拒絶されて生じる屈折したうらみの感情に繋がると考えられ、その敵意を感じ取り、同一化することが、同甘えへの苛立ちに影響するように推察される。

支援者の構えおよび対応の特徴として、甘えを対象理解に活かす対応や支援に活かす対応が多いことが考えられる。このことについて、同甘えは、上記のように、表面の不合理的態度の背後に様々な欲求や感情を複雑に持つため、甘えAと同様、この態度を検討することがより精細な対象理解に繋がるように捉えられやすいことが考えられる。

6. 総合考察

甘えの元型は、乳児において母子分離の事実を否定し、分離の痛みを止揚しようと試みることにある。本研究で調査した5つの甘えも、そのように、母子未分化の頃には引き受けずにいられた痛みや苦しみから逃れるための試みといえるが、いずれの甘えも、そのために自身が変化するのではなく、周りが変化して対応することを望む性質を持つと考えられる。このことが、各甘えで共通する不快感情の要因といえ、甘えられる側は反発的に反応すると推察される。この反応は、甘えられる側にとって未解決な心理問題に触れる際にはより強く生じると考えられ、特に支援者の場合は、自身の反応に振り回されずに対応していく必要があるといえる。

最後に、本研究の課題を述べる。まず、本研究では不快感情を扱うにあたり、対象に対して怒りや嫌悪を向けたり、対象からの危害を不安視したりするといった、攻撃―被害に関連する感情と、対象を心配したり、対象の苦しみに共感するといった哀れに関連する感情を、どちらも心的に負荷のかかる感情として区別せずに分析した。しかし両感情は、対象に巻き込まれて起こる点では一致するが、経験する内的反応や、その後に取られる構えや対応には違いがあるように考えられる。今後の研究では、二つを区別することで、それぞれの特性や関係性が明確になると考えられる。次に、本研究では、7名の協力者にインタビューを行ったが、甘えE（詫び）に対しては3名において心当たりがなく、十分なデータが取れたとはいえなかった。この結果について、表現の問題が考えられる。本研究では、土居（1971）の文章からあまり離れず「すみませんでした」という表現を使用した。このことによって場面を狭く限定してしまっただと考えられる。同甘えの肝要な点は、相手に永劫的に甘えたいと望むために、相手の親切すら不安に感じることにいえる。今後の研究では、この点に留意しつつ、どの領域でも想起しやすい表現に変更する必要があると考えられる。

引用文献

- Corbin, J. & Strauss, A. (2008). Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory, 3rd ed. Sage Publications. 操 華子・森岡 崇(訳)(2012). 質的研究の基礎: グラウンテッド・セオセオリ―開発の技法と手順第3版. 医学書院.
- 土居 健郎 (1958). 神経質の精神病理: 特に「とらわれ」の精神力学について. 精神神経学雑誌, 60 (7), 27-38.
- 土居 健郎 (1971). 「甘え」の構造. 弘文堂.
- 土居 健郎 (1991). 「甘え」の構造第3版. 弘文堂.
- 土居 健郎 (2001). 続「甘え」の構造. 弘文堂.
- Niiya, Y. & Harihara, M. (2012). Relationship closeness and

control as determinants of pleasant *amae*. *Asian Journal of Social Psychology*, 15, 189-197.

戈木クレイグヒル滋子(編集)(2008). 質的研究法ゼミナール:
グラウンテッドセオリーアプローチを学ぶ, 医学書院.

谷 冬彦 (2000). 青年期における「甘え」の構造. 相模女子
大学紀要, 63A, 1-8.

内田 亜紀子 (1998). 大学生の「気がね」に関する研究. 群
馬大学教育実践研究, 15, 271-284.

山口 勸(1999). 日常語としての「甘え」から考える. 北山修(編
集), 「甘え」について考える, 星和書店, pp. 31-46.

